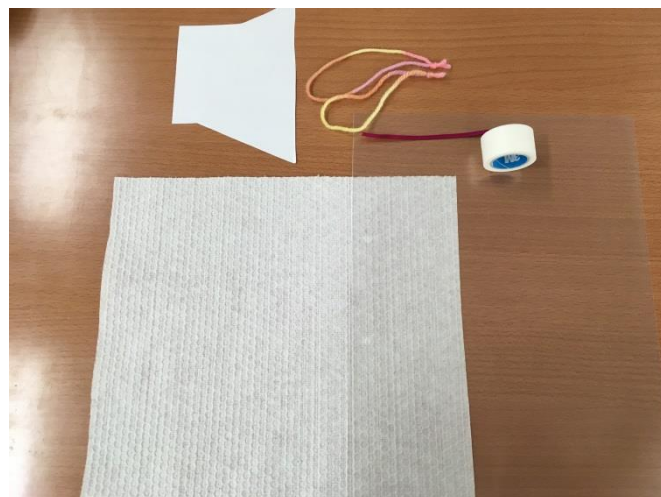
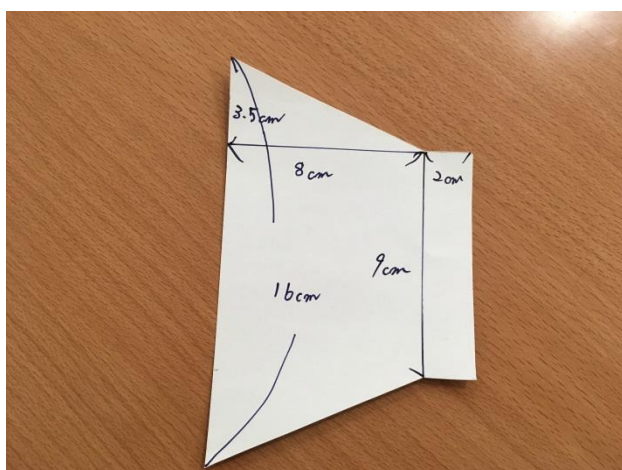


# 聴覚に障がいがある方との対話用 マスクの作り方



用意するもの

- キッチンペーパー 1枚
- 型紙用の紙(16cm×10cmのもの) 1枚
- サージカルテープ(医療用)
- 毛糸(36cm×2本) \*両端を縛り、輪にしておく
- メタリックリボン 1本 (クッキー袋などの口を止めてある紐)
- A4リフィル(書類などをファイリングするポケット式の透明の袋)



①上記寸法の型紙(別紙に原寸大のPDFあり)を準備

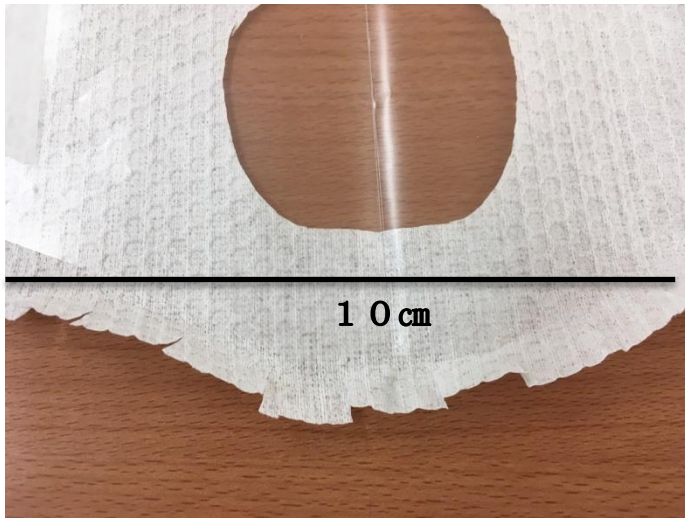


②キッチンペーパーを縦半分に折り、型紙の長辺をキッチンペーパーの輪になっている部分に置き、型をとる。

③リフィルの輪になっている部分を利用して、型紙より1cm小さく型を取る。この時、耳側は型紙より2cm小さく型を取る。



④キッチンペーパーを、上記寸法で中央部分を切り取る。

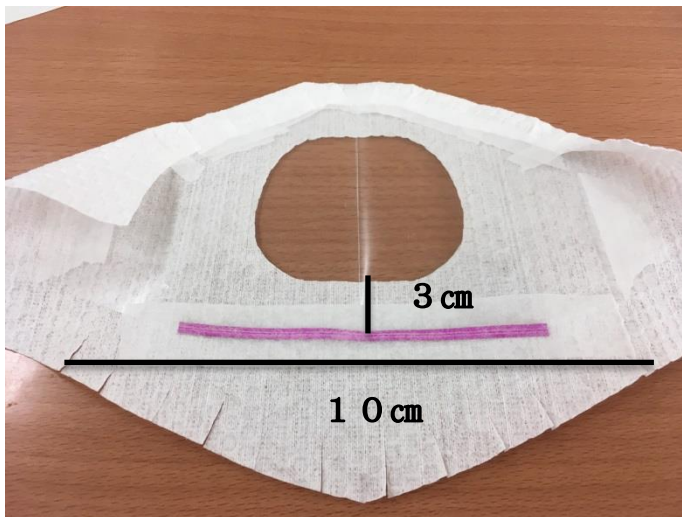


⑤④で作成したキッチンペーパーを広げ、中央に③で型抜きしたリフィルの突起部分が下になるように置き、あごを覆う部分をつくるため、(あご側)穴の下3cmのところ中心から直線で左右5cmずつ合計10cmの間に切り込みを入れる。

⑥切り込みを、少しずつ重ねて中側に立てるようにしてサージカルテープでとめる。(土手をつくるようなイメージ)

<ポイント>

切り込みを入れる時、リフィルも一緒に少し切るとキッチンペーパーが立ちやすくなります。



⑦⑥で作成した部分と反対側(鼻側)を作る。

中央の穴の開いている部分から、3cmのところからメタリックリボンを置きサージカルテープでとめ、メタリックリボンを止めたところから鼻先に向けて1cmの所に直線で10cm(左右5cmずつになるように)の間に切り込みを入れ、鼻に沿うようなイメージで重なり合うように内側に曲げてとめる。

⑧マスクをつけた時、リフィルに口が付くのを防ぐため、メタリックリボンと同じ長さで4cm幅ほどのキッチンペーパーを棒状に4つ折りし、メタリックリボンのすぐ下にサージカルテープでとめる。





⑨耳側になる端に、輪にした毛糸を置きキッチンペーパーの端を2回折り曲げてサージカルテープでとめる。  
反対側も同様に毛糸を置きキッチンペーパーの端を2回折り曲げてサージカルテープでとめる。(筒状になった部分の中で毛糸が動くように折る)



できあがり(左写真)

聴覚に障がいがある方で、口話にてコミュニケーションをとる方の「会話している相手がマスクを着けていると何を言っているのかわからない、だからといって『マスクをとってほしい』とは言いづらく困っている」というお話を聞き制作しました。

簡易的なものではありませんが、手話通訳者や相談窓口の方と口話で会話される時は、口元が見えると聴覚に障がいがある方は安心して話を聞くことが出来ると思います。

制作の⑧番で、棒状のキッチンペーパーを取り付けたのは、口がリフィルにつくことでマスクが動いたり、くもったりして、口元が見えなくなるのを防ぐためです。